

詩

かきい
笠井
かおる
馨



宇部市
(1917～1961)

『全国結核療養者詩集』にも掲載され、白衣の詩人として県内でも特異な存在の笠井馨は、宇部市の出身である。昭和十五年、二十三歳の時咯血し、療養所を転々とすることとなる。宇部市の国立山陽荘に移ってからは、山陽荘詩話会で活躍し、こだま詩社のメンバーとも交流する。院内の詩のグループ誌『潮騒』に作品を発表、その感性豊かな詩はひとときわ光っていた。カトリック教徒でもあり、詩の主題に祈りの気持ちがにじんでいる。

(和田 健)

【主な著作】

詩集『赤い聖体ランプ』

(こだま詩社、昭和37年)